

波郷記念館だより 第三十三号



発行日 平成 28 年 9 月 20 日
 発行元 江東区砂町文化センター
 〒136-0073 東京都江東区北砂 5-1-7
 電話：03(3640)1751

石田波郷記念館 企画展 「鶴」と歩む —石田波郷と俳句結社「鶴」—

十一月二十一日は「波郷忌」です。毎年、石田波郷記念館では、この波郷忌に合わせて、常設展のほか、様々なテーマに沿った展示をおこなっています。今回の企画展は「鶴」がテーマです。「鶴」は、波郷が創設した俳句結社で、今年の四月、毎月発行している俳誌が八五〇号を迎えました。戦前、戦後という動乱の中を生き抜いた「鶴」に焦点を当て、波郷の俳人とし

ての人生、そして「鶴」を支えた人々に関する資料を展示します。ぜひ足をお運びください。

- 展示情報●●
- 【期間】平成二十八年十一月九日（水）～十一月三十日（水）
- 【時間】九時～二十一時
- 【入場料】無料
- 【場所】砂町文化センター 二階
石田波郷記念館／展示ロビー

波郷が語る「鶴」

先達のこと、僕は僕らの新しい雑誌の名前をつける役を引受けたが、二日三日とたつても容易にい、名前は考へつかなかった。(中略)ある時銭湯で、計量器に載つてゐてふと次の言葉を思ひついた。

「瘦軀鶴の如し」

(中略)

翌朝目が覚めると真先に「鶴」といふ言葉が意識に來た。

〔石田波郷全集 第八卷 随想I「鶴に似ず」より〕

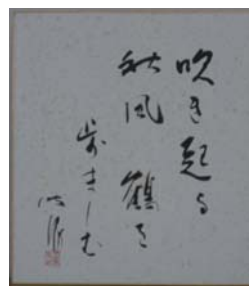
◇ 鶴を詠つた俳句など余りないであらうと漠然と考へてゐたが「鶴」を發刊することになつてから鶴といふ文字が

非常に目を惹くやうになつた関係か、鶴を詠つた句といふものは相当に多い。

兎の嘆秋風の鶴あゆまざる

吹きおこる秋風鶴をあゆましむ

〔石田波郷全集 第八卷 随想I「鶴の眼 鶴の句」より〕



石田波郷直筆色紙 (石田波郷記念館蔵)

読み物 波郷のいた江東区の風景 2

「私の句を刻んだ小さな句碑が、土地の俳人の好意によつて、その句の生れた妙久寺の鐘樓の焼跡脇に建つてゐる。」

〔石田波郷全集 第九卷 随想II「回想の江東」より〕

上記の写真に写っている人物は石田波郷本人です。

はこべらや焦土のいろの雀ども

右の句は、東京大空襲から一年後、焦土となつた江東区に移り住んだ波郷が、力強く復興していく町、人々の姿を詠んだ俳句のうちのひとつです。そしてまさに、この写真に写っている句碑に刻まれた俳句でもあります。

江東区境川交差点を少し西に入ったところにある妙久寺にこの句碑は現在も残っており、どなたでもご自由にご覧いただけます。

これから散歩をするには良い季節となります。芸術・文化の秋に、波郷の足跡をたずねて、ぜひ、足を延ばしてみたいかがでしょうか。

【妙久寺住所】東京都江東区北砂二丁目一の四〇



句碑の前に立つ波郷 (石田波郷記念館蔵)

はこべら俳句大会 第十六回 石田波郷記念

砂町を愛した石田波郷をしのぶ「はこべら」俳句大会を開催します。
今年も選者に石田郷子氏を新たに迎えました。
皆様の投句をお待ちしております！

募集要項

投句	2句一組(波郷を偲ぶ俳句一句・雑詠一句)。 未発表作品に限ります。何組でも可。
投句料	2句一組1,000円(大会句集代および送料) ※定額小為替か現金書留(切手不可)にてお支払いください。
選者	石田郷子、上田日差し、大串章、鈴木しげを、徳田千鶴子 (五十音順)
賞	石田波郷記念「はこべら」賞1名、石田波郷記念館賞1名、各選者による特選3句、入選10句 ※類句・類想句・二重投稿(結社誌・大会句集などに掲載されたものを含む)については賞を取り消すことがあります。
発表	平成29年2月中旬までに入賞者に直接通知
授賞式	平成29年3月12日(日)14:00より 江東区砂町文化センターにて
投句方法	規定用紙または200字詰原稿用紙に楷書で、郵便番号、住所、氏名、番号、電話番号、性別、年齢を明記(氏名、番号にはフリガナ)し、〒136-0073北砂5-1-7砂町文化センター内俳句大会係に郵送または窓口で。
締め切り	平成28年12月10日(土)



昨年の授賞式の様子

○石田郷子先生プロフィール○

東京生まれ。1986年「木語」入会、山田みづえに師事。1997年第一句集『秋の顔』にて第20回俳人協会新人賞受賞。2004年「木語」終刊にともない、「椋」を創刊。「椋」代表、「星の木」所属、俳人協会会員、日本文藝家協会会員。

俳句実作講座

句会・吟行の楽しみ方
講師 鈴木しげを(俳句結社「鶴」主宰)

人気の俳句実作講座です。句会を中心に講義を進めていきます。講師による俳句の添削・指導があります。※宿題が出ます。

◆募集は九月二十四日(土)まで。募集期間後も、空きがあれば引き続き募集します。詳しくはお問合せください。

◆お問合せ
砂町文化センター／
石田波郷記念館
〇三―三六四〇―一七五一



吟行予定場所・清瀬市
ケヤキロードギャラリー

【日程】平成28年10月15日(土)
～平成29年2月4日(土)
【回数】全7回
【時間】13:30～16:00
【場所】砂町文化センター 第1会議室
【定員】25名
【受講料】8,000円(全7回分)
【教材費】500円(全7回分)

カリキュラムの中で、二回、吟行句会を予定しています。(十一月・十二月)
場所は清澄庭園と清瀬市を予定しています。



砂町文化センターニュース

Vol.
33秋の講座
受講生募集中

「秋だから始める、秋だから見つける」

秋から始まる講座の一部をご紹介します。
このほかにもさまざまな講座があります。
詳しくはお問合せください。

地域理解
散策

野外博物館に行こう！

講師：早川 典子(東京都美術館学芸員)

移築された建物を展示する野外博物館について、展示物の観方だけではなく建物の維持・管理や裏方事情、今後の野外博物館の在り方などを実際に現地の展示施設を見学し考えていきます。



江戸東京たてもの園

■金曜・4回・14:30～16:00

■定員：25名

■受講料・教材費：3,800円・200円

※現地講義の交通費および入館料は各自負担となります

[講座番号220376]

日程

11/4・11/18・12/2・12/16

こども
親子

～自分の街を知ろう～

親子で楽しむ手描き地図教室

講師：高橋 美江(絵地図師・散歩屋)

自分の住んでいる街はどのような特色(良さ)があるか、実際に自分で街を歩いて観察・調査をして手描きで地図を作ります。手描きで作ることによって新しい発見がうまれます。



講師作品

■日曜・全5回・10:00～11:30

■受講料・教材費：4,000円・300円

■定員：親子15組

[講座番号220378]

日程 10/23・11/6・11/27・12/11・12/18

【作品展示会】12/18～12/25 砂町文化センター1階ロビー

こども
親子

親子で学ぶ天文学

～宇宙を知るための5つのお話～

講師：青木 和光(国立天文台 准教授) ほか

日々解き明かされていくと同時に深まる宇宙の謎と神秘を親子で学んでいきます。

■日曜・全5回・14:00～15:30

■受講料・教材費：5,000円・200円

■定員：小学3年生～6年生とその保護者15組

[講座番号220385]

日程

10/30・11/13・11/27・12/11・12/18



月光の中で
(Photo by Dr. Sebastian Egner
-Subaru Telescope, NAOJ.)
提供：国立天文台

こども
親子親子と大人のための
和風づくり教室

講師：田淵 和夫(日本の風の会会員)

日本の伝統文化である和風。和紙に絵や文字を描き、竹ひごを使って和風を作ります。竹の骨組みに紙を張った伝統的な和風を親子で協力して作ります。大人の方も参加できますので、ぜひこの機会に日本古来の遊びを楽しみましょう。

■土曜・全5回・10:00～12:00

■受講料・教材費：1,500円・500円(親子)
1,200円・500円(大人)

■定員：親子10組・大人10名

[講座番号220382]

日程

11/5・11/12・11/26・12/10・1/14※
※都立大島・小松川公園で風揚げをします

講師作品

- はがき・FAX・インターネットは9月24日(土) 必着
- 定員を超えた場合は抽選となります
- 9月25日(日)以降は先着順にて受け付けます。
詳しくはお問い合わせください。

講座のお申込み方法

① 窓口(開館時間 9:00～22:00)

② 電話(開館時間 9:00～22:00)

03-3640-1751

③ FAX

03-5606-5930

休館日
毎月第1・3月曜日
(ただし祝日の場合は開館)

はがき・FAX 記入例

④ はがき

〒136-0073

江東区北砂 5-1-7 江東区砂町文化センター

⑤ インターネット

<http://www.kcf.or.jp>

●インターネットからの講座申込みには「受講生番号」と「パスワード」が必要です。これまでに講座を受講したことがある方は講座を実施しているセンターにお問い合わせください。初めての方は、インターネットから「受講生登録」を行ってください。

① 砂町文化センター・講座名 ② 氏名・フリガナ ③ 生まれ年(西暦)・性別
小学生以下は生年月日 ④ 郵便番号・住所 ⑤ 電話番号・FAX 番号

砂町文化センター ご利用案内

ピアノ練習室

3階 第一研修室・舞台



砂町文化センター 3階、第一研修室の舞台上にあるグランドピアノを貸し出します。受付日より1週間先までの第一研修室が空室に限り、1時間1,000円でお貸し出ししています。お教室などでのご利用はできませんが、グループでの練習は可能です。発表会の練習などにいかがですか？



ピアノ機種 ヤマハS400B

料金

1時間につき1,000円/人

※上限5名まで

※中学生以下は保護者付き添い1名まで無料

貸出期間

受付日より1週間先までお貸し出します

上限：2時間

対象

1人～5人まで

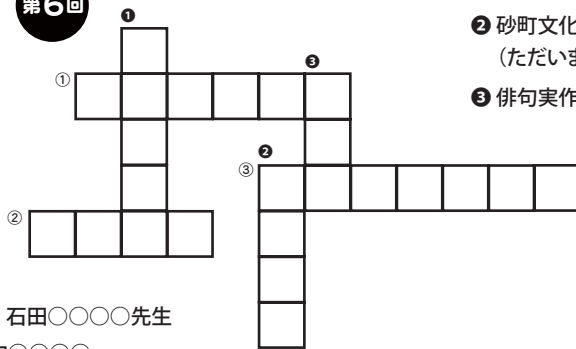
教室などでの利用はできません

すなまち クロスワード



第6回

★こたえは
このページ下です



よこ

- ① 宇宙の謎と神秘を学ぶ講座「親子で学ぶ○○○○○○」
- ② 俳句大会に新たにお迎えした選者、石田○○○○先生
- ③ 「鶴」は、石田波郷さんが創設した俳句○○○○。

たて

- ① グランドピアノが使える「ピアノ○○○○○室」
- ② 砂町文化センターの俳句大会。「○○○○俳句大会」(ただいま作品募集中!)
- ③ 俳句実作講座では○○○と吟行の楽しみ方を勉強します。

Let's Challenge!

砂町や江東区についてのクイズが入っているよ!



地域コラム

砂町の懐かしい川と橋

- 第2回 砂町地区にあった川 -

前回は橋についてお話しましたが、今回は砂町地区にあった主な川について紹介したいと思います。

【入舟川】境川(現清洲橋通)から南へ、東砂八丁目までの約720mの川。農業用水や運搬用として使用され、北から順に出戸の橋・神明橋・土橋・榎本橋が架かっていましたが、周囲の地盤沈下のため1940年(昭和15)に埋立てられました。

【境川】別名「砂村川」「船入川」ともいい、横十間川の少し南、扇橋三丁目から始まり葛西橋通り沿いを流れ、中川にまでありました。この川は砂村などの村々の農業用水で、運搬船の交通路とし

て重要な役割を果たしましたが、関東大震災の復興計画で街路の幹線28号として1924年(大正13)埋立てが決まり、1930年(昭和5)には姿を消しました。

【砂町運河】砂町運河は大正時代に民間の手によって開削された他に例の少ない運河です。着工は1922年(大正11)、まず小名木川合流点(東砂2-12)から横十間川合流点までの東西の一線が1933年(昭和8)までに完成、1948年(昭和23)東京都に寄贈され砂町川と改称、1961年(昭和36)には早くも一部が埋立てられ、都立東高校の校地などになりました。1980年(昭和55)親水公園として生まれ変わりました。なお区立第

六砂町小近くで当時の護岸の一部が保存されています。

【代官堀】かつて進開橋近くの小名木川から砂町銀座商店街入口付近まであった直線状の川です。詳細は不明ですが、近くにある治兵衛稲荷神社の由緒書きによると江戸時代に代官所が設置されていたとあります。昭和のはじめ頃には姿を消していたと思われます。

このほかに、元メ川(元八幡通り)・西横川(南砂一丁目)・東川(南砂三・四丁目)などがありました。



公益財団法人
江東区文化コミュニティ財団

心にうるおい、地域ににぎわい。
Koto City Culture and Community Foundation

発行
江東区砂町文化センター

〒136-0073 江東区北砂 5-1-7 TEL 03-3640-1751
<http://www.kcf.or.jp/>